

3月11日は
あたりまえを
ありがたいと
思う日

いいね

飯舘村

入賞作品を 紹介します

入賞者紹介

- 最優秀賞 渡邊 陽南子さん（千葉県）
優秀賞 折笠 友一さん（二本松市）
中島 のり子さん（伊達市）
相良 玲華さん（飯舘村）
ほっこり賞 上田 秀さん（飯舘村）
竹村 優奈さん（東京都）
厚木 剛さん（東京都）
佐藤 公子さん（飯舘村）
三村 恭生さん（愛知県）
特別賞 愛知県春日井市立東部中学校3年1組

たくさんのご応募をありがとうございました

最優秀賞 渡邊 陽南子さんのエピソード

生まれ育った田舎のまちの自然や風景や暮らしを、特別幸せだと思ったことはなかった。でも、大学生になって上京した私は、帰省のたびに空気がおいしいとか満天の星が綺麗だとか、本気で感じて心から癒され、涙が出そうになる時もあった。それは、「あたりまえ」ではなく「幸せ」だったのだ。その幸せがあることに、それに気付けたことに、心から感謝したいと思った。私も飯舘の人たちと同じ思いで、3月11日を「私にとってのあたりまえをありがたいと思う日」にしよう。あたりまえという幸せがずっと続くように…。そう思わせてくれたこのプロジェクト、3月11日への思いとの出会いが、また幸せだと思えている私だった。



優秀賞 折笠 友一さんのエピソード

人は一人だけでは生きられない

37年前のことでした。順風満帆。心そのままの生活に基だしい生き様の自分であったと振り返る。思い通りに勇ましくなり、威圧的な態度を取っていた私でした。ある日、不慮の事故で車いす生活の障がい者となりました。予期せぬ出来事に前途を悲観し、この世を諦め掛けたことも事実でした。そんな中、周りの人から支え、励まされ、生きる力と勇気を貰いました。人の心のあたたかい思いやり、恩愛の絆に人間は決して、自分だけ一人で生きていることではないと会得しました。思い起こせば、あのときのことがあったからこそであり、共に生きる人間社会。私は素晴らしい人生に心から感謝です。



優秀賞 中島 のり子さんのエピソード

「あたりまえをありがたいと思う日」に寄せて

私は、平成30年11月、夫を胃癌のため亡くしました。東日本大震災で大切な方を亡くされた方もたくさんいらっしゃると思います。



どこか他人事のように受け止めておりましたが、今、自分が大切な人を失って、日常のあたりまえのありがたさを痛切に感じています。

「昨日までの日常の幸せが明日も必ずあるとは限らない。だから今日一日、精一杯生きて、後悔しないように。」と主人が常々言っていた事を思い出しています。

普通の日常の幸せ、何げない会話、健康、これは、あたりまえのように思いますがそうではありません。

一日一日を大切に生きて行くことが本当に大事だと改めて心に思っています。

優秀賞 相良 玲華さんのエピソード

幸せを教えてくれた貴方へ

私は昨年、貴方（婚約者）と同棲を始めました。「ありがとう。」ご飯の支度を終えた時、洗濯物を干し終えた時、お風呂を洗い終えた時。いつも貴方は私に言ってくれます。この言葉は、気持ちを素直に伝えられない貴方が、唯一素直に伝えてくれる言葉です。



2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。貴方は、まだお付き合いをしていなかったにも関わらず、私を心身ともに支えてくれました。

当時、入手困難だった食料や衛生用品を、段ボールに沢山入れ、届けてくれました。

放射能が怖くてたまらなかった毎日。でも、そんな私に貴方は「飯舘村、放射能値下がってきてるよ！」

「心配することないよ、絶対大丈夫！」そう言ってくれて、来る日も来る日も励ましてくれました。

貴方となら、この先何があっても乗り越えられる。ずっと一緒にいたい。私の溢れる気持ちを伝えた日から、2人のお付き合いが始まりましたね。

—それから約8年。

今も私の隣には、もうすぐ入籍を控えた貴方がいます。

最近「可愛い」とも「好きだよ」とも言ってくれないけど、私は貴方の優しさを誰よりも知っています。

貴方のおかげで、当たり前のように笑顔いっぱい毎日を送れること。当たり前のように幸せいっぱい毎日を送れること。本当に感謝しています。

これから、人生まだまだ長いけれど、どんな時も2人ですとこの気持ちを、この言葉を大切に生きていきましょね。

「ありがとう。」

大島花子さんのミニコンサート 表彰式の第2部。心いやす素敵な歌を聴かせていただきました。



3月11日に合わせて東北を訪れていた大島花子さんが「あたりまえをありがたいと思う日」の主旨に賛同し、素敵な歌を届けてくださいました。父である歌手の坂本九さんを、11歳の時に、飛行機事故で亡くした大島さんは、来場者に思いを寄せ、「父とは亡くなる前日も一緒に過ごしていました。テレビで高校野球を中継していて、父と一緒に草むしりをして、母が作ったかき氷を食べる…。もしもあの日に戻れたら、同じようにあたりまえの何でもない時間を過ごしたいと思うんです。生きていくことの幸せ、今があることの尊さを、強く心に想っています」と語りました。